

大沼郡小松村の小池左京新田宿相立候御代官給人構無之者望次第罷出開作可致候、二十箇年以前爾致欠落候者、屋焼人殺致候者の外は、御代官給人構無之罷出於開墾は異議有間敷候、御年貢之儀は三箇年作取被下御役儀末代可被成御容赦候条可得貴意候也。

寛永三丙寅年二月四日

外池 信濃 守

福西 吉左衛門

稲田 数馬之助

寺院白米山泉現寺は浄土宗若松徒町可山願成就寺乃末山なり、元禄元年の建築にして本尊弥陀客殿に安置し奉る。願成就寺は旧耶麻郡五目組加納荘上三宮村加納山願成寺の移しにて京都智恩院の末山也。

浄土四流の一多念義の元祖隆寛が願成寺の開基也。隆寛は栗田関白乃後胤少納言資隆乃三男にして、願成就寺を若松徒町に移したるは、慶長四年上杉景勝の命に依り、良翁を以て開山とす。寺領白石を賜わる。

堂宇 玉光堂は奉安置地藏菩薩の草創は、人皇五十一代平城天皇の御宇大同年中徳益大師の御作にて御尊躰長二尺八寸槽尾宗願の守本尊の由云伝う。天正年中草名盛氏が本郷村羽黒山に御居城の時、天俄に掻き曇り、閃電雷轟実に棲まじき有様となれば、宗願其の運氣を考え天空を望み、沐浴齋戒し、荒々しく瑠璃の壺より葉を擗げ奉れば、神忽然として現れ、童子と変じて一卷の書を宗願に授く。宗願則拝受して之を子孫に伝うとかや。其の後宗願一度瑠璃の壺を開けば四方の悪病忽ち去り尽ぬとかや。是則ち神力の然らしむる処にして寔う尊かりけり次第ならばや宗願故郷槽尾村に帰り死後郷人より薬師如来として祀られ水災難病を救わせ賜うと云う。宗願此地を去りし後は御堂も自然淋しくなり、天和三年の大洪水に玉光堂押流され、漸く菩薩の御尊躰のみを取揚げ奉り、十王は不残流され賜う。此時由来の書も流失せし由申伝う。夫れより寛永七年迄は端村宗願町の民家に安置し、正徳元年に至り当村肝煎小池喜惣兵衛義徳と云う者、泉現寺客殿に移し奉るとかや。其の後義徳七代乃裔小池彦次郎(後喜八郎と改名す)